

## 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月

事業所名 こどもの森うらここ（放課後等デイサービス事業）

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境 ・ 体制 設備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		運動にはもう少しスペースが欲しいが戸外活動を積極的に取り入れている。各部屋で分散等工夫している。カーテンでホールを仕切ったり人数に応じ時間交代をしている。	今後も活動内容を分けて分散するようにしていきたい。図書館や博物館だけでなく色々な社会見学の機会もつくりたい。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			個別、集団で活動出来るよう内容を検討している。利用人数により職員配置を変え、こどもの状況に合わせ1対1の対応が出来るようにしている。	人員配置は満たされているが町内の感染症の状況により職員の欠勤や児童の利用変更などもあった。緊急時に備えた人員体制も必要。（新年度からは保育士の配置数を見直す。）
	③	事業所の設備等についてバリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			玄関スロープ、手すり、児童用高さの洗面台。躓かないようマット、クッションフロア使用。音、声の反響を減らすため吸音工事施工。	ホール床のクッションが気温湿度で膨張しやすいが、今後も適宜調整して安全な環境を維持したい。
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	○			週一回支援会議を実施し情報共有している。普段から気が付いた事はその時に話しあうようにしている。	情報共有や振り返りの時間を多く確保していく。日頃より職員間で意見を出しやすい雰囲気づくりに努めより良い支援を心掛ける。
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し業務改善につなげているか	○			年1回アンケートを実施。集計結果について話し合いを行っている。	アンケート結果の話し合いだけでなく、今後も普段からの会話やお電話での様子を大切に、ご意見を聞かせて頂き、1つ1つ改善していく。
	⑥	この自己評価の結果を事業所の会報やホームページで公開しているか	○			集計した物を年度末にホームページにて公表し、ご家族にも用紙で配布している。	保護者その他が来所時に閲覧できるよう玄関に掲示する。今後も年1回ご意見を頂き改善に向け話し合うと共にホームページにて公表する。
	⑦	第三者による外部評価を行い評価結果を業務改善につなげているか	○		○	第三者評価の受審はしていない。外部職員からのアドバイスを元に話し合い、支援の向上に努めている。	今後も客観的なご意見を聞かせて頂き改善に繋げる。
	⑧	職員の資質向上を行うために研修の機会を確保しているか	○			出来るだけ多くの機会を確保するよう努めている。月に1~2回研修を受けスキル向上に	色々な研修会参加の機会を設け、全職員の専門性を高め質の向上を図り、実践に繋げて

	⑧		○		努めている。定期的に参加。Zoomや地域の研修会に積極的に参加している。	いく。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		保護者との面談や学校での様子などを職員間で共有し話し合って作成している。児童の様子、保護者等の意向を受け職員会議し個々の目標に合わせた支援計画をたてている。	共有、作成だけでなく、職員それぞれがもっと計画を読み込んで実践に繋げていく。今後も日々の成長や変化を保護者、関係機関と伝えあい現状に合わせた計画を作成する。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		支援記録ソフトを使用してアセスメントシートを作成している。	アセスメントシートを活用して職員一人ひとりが読み込むと同時に職員間、保護者との情報共有を更に細かく行い理解を深める。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		週毎の立案担当制にし、担当者が中心となって会議で内容を話し合い決めている	実践後の振り返りを元に話し合い今後も内容を改善していく。職員個々のスキルアップ、知識を深める事でチームとしての機能を高める。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		週毎の立案担当制。より良い内容を話し合い季節の制作、あそびを積極的に取り入れている。こどもの意見を聞き内容を工夫している	今後も全職員でアイディアを出し合い、活動の幅を広げていく。児童の意見も積極的に取り入れる。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて課題を決め細やかに設定して支援しているか	○		送迎、利用時間を考え決めている。一人ひとりに合わせた支援をしている。季節、行事も踏まえ設定を考えている	長期休みは平日に比べ利用時間が長いため沢山の中から選択出来るようにしていく。利用児童に合わせきめ細やかな内容になるよう話し合いを重ねていく
	⑭	子どもの状況に応じて個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		個々の状況に合わせている。話し合いをして決めている。 個別、集団活動を子どもが選べるようにし個別にサポートもしている。	今後も児童の希望や各家庭のニーズを伺い個別、集団活動を選択したり組み合わせ活動出来るようサポートしていく。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをしその日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		支援開始前に再度確認している。 1日の予定をホワイトボードに書いて確認している。職員の人数により個別にその日の担当者を調整している。	職員の細かい動きや日々の目標の確認なども密に行っていく。
	⑯	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをしその日行われた支援の振り返りを行い気づいた点等を共有している	○		シフトにより全職員同時には難しい事もあるが可能な限りその都度話をしている。こども対し関わりが良かったか会話の中で共有、反省。改善点は変更し次に生かしている	定期的に会議を設けながら、今後も振り返りを大切に次の支援にもっと繋げていく。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し支援の検証、改	○		日々の記録を定期的を確認し自身の改善点を見つけている。毎日、記録、日誌を作成	児童の利用時間の合間などに今以上に振り返りの時間を設けて検証、改善に繋げていく。

	善につなげているか			気になる事は確認してから記録している	
⑱	定期的にモニタリングを行い放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		半年ごとに保護者とモニタリング、計画の見直しを行っている。	保護者との話し合いを今後も大切に、必要に応じ学校や医療機関との連携も含め計画に反映させる。見直すだけでなく職員それぞれもっと計画を読み込み計画に沿った支援を実践する。
⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	○		学校や関係機関との連携を図り個々の状況や家庭環境に合わせた支援を心掛けている。指導的役割だけでなく自己肯定感の向上や余暇活動の充実を図り支援している。活動内容に不足がないか職員間で確認しながら計画。	今後も一人ひとりに合わせて必要な支援を継続できるよう、職員間の話し合いを大切に
⑳	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		普段の児童の様子や今後の姿について全職員で情報共有してから、児童発達支援管理責任者又は支援参加者が参加している。	今後も関係機関との連携を図り、保護者のニーズ、児童の様子を共有してきめ細やかな支援を行っている。
㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		学校にも協力して頂き行っている。下校時に気になる事はその場や電話で話すこともある。電話で情報共有や確認調整。時間変更などある時は必ず全職員で共有し迅速に対応、体制を整えている	今後も学校とこまめに情報共有を行い、互いの場での様子を伝え合ったり事業所での様子が見学なども招待する。学校行事の見学や参加も可能な限り続けていく。
㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合はこどもの主治医などと連携体制を整えているか	○		現時点で該当する児童はいないが、医療機関の受診引率や、受診時の内容書類の確認など個々に合わせたサポートをしている。	該当する児童の受け入れ時には保護者と相談のもと適切に連携を図る。
㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		幼保から就学、小から中学への引継ぎ援助、入学前の母子の学校見学引率、小学校教員の幼保見学に同行させて頂くなど必要に応じて移行支援を実施。ケース会議、電話、オンラインなど状況に合わせた方法も行っている。	今後も継続的に連携を図り、児童、保護者が安心して次のステップに移行できるよう応援していく。
㉔	学校を卒業し放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			今の所該当する事例がない。保護者、本人の希望により情報共有、連携できるように、普段から地域の学校、成人の障がい福祉サービス事業所や医療機関との繋がりを大切にしている。	今後スムーズに移行できるよう、またその後も地域の中で応援の輪の仲間であられるように、在学中から児童と共に地域の福祉サービス相談支援サービスなどの見学などを進めて安心な繋がりを大切にしていく。

保護者との連携	②5	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し助言や研修を受けているか	○		他の事業所との委託契約により作業療法士や言語聴覚士、心理士など専門支援員が来所し助言を頂いている。研修会にも積極的に参加している。	今後も継続して、職員の専門性を高め、質の向上に努める。
	②6	放課後児童クラブや児童館との交流や障がいのない子どもと活動する機会があるか	○		公園や公共施設、法人内の施設で他の事業所や一般の児童に会い少しの時間を一緒に過ごす事がある。地域の障がい者施設や医療機関と連携しイベントを開催する事もある。	利用児童が通う学校で普段から安心して集団生活を送る事が出来るように今後も授業参観やケース会議に参加して連携を図っていく。
	②7	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○		町内、管内の子育て・教育に関する協議会に積極的に参加している。	今後も各協議会の参加により地域社会、教育福祉、医療機関との連携を深める。
	②8	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっている	○		所内相談だけでなく、連絡ノートや電話等でこまめに伝えている。送迎時に様子や気づいた事を共有。電話、メモを使用し確認。	普段から話しやすい雰囲気づくりに心掛けながら定期的な面談も継続し、保護者と協力して子育てしていく。
	②9	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか	○		保護者会やモニタリングの場でお話させて頂いている。希望により委託専門支援員に直接相談する機会を設けている。町内の研修会の告知や取りまとめを行い、参加を勧めている	毎月開催している保護者会の中で専門家からの研修会を計画していきたい。 職員の専門性を高めるための研修も受講しておきたい。
保護	③0	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時や所内相談時に説明。その後も必要に応じお伝えしている。	今後も気になる事をお話して頂ける雰囲気づくりに努め、ご質問は丁寧にお応えしていきたい。
	③1	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		連絡ノート、電話などで早い対応を心掛けている。一緒に悩み考え、専門支援や医療機関を紹介する事もある。定期的な所内相談、保護者会、送迎時等お話の機会を設けている。	保護者から安心して相談して頂ける雰囲気づくりに努める。 職員個々の知識と経験を積み、質の向上に努める。
	③2	父母の会の活動を支援したり保護者会等を開催する等により保護者同士の連携を支援しているか	○		月1回保護者会開催。知り合い、連携を図れるように、個別に参加の声掛けをさせて頂く事もある。	今後も積極的に参加して頂けるようにお声がけしていく。父親同士のつながりも実現したい。
		子どもや保護者からの苦情について			事業所内に苦情相談窓口を設けているが、話	意見箱には児童、保護者からも気軽にご意見を頂け

受 者 へ の 説 明 責 任	③③	対応の体制を整備すると共に子どもや保護者に周知し苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		しやすい人に伝えておらうようにしている。職員間で確認してから対応している。町内に第三者委員を設置し契約時に説明。意見箱を玄関の見える所に移動し設置した。	るように定期的に周知の機会を作る。書く事が難しい場合は大人が援助したり普段の活動の中で書く練習をしてみる。ご意見を沢山頂きより良い事業運営に役立てたい。
	③④	定期的に会報などを発行し活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月お便りを発行。ホームページでも発信。送迎時にも共有している。	お便りやホームページは見た目の分かりやすさや情報の間違いがないかなど職員間で内容を確認、相談しながら作成する。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	○		持ち出さず鍵のかかる書庫に保管。口外せず勤務外に情報が洩れぬよう管理徹底。ホームページの顔写真にも配慮している。	今後も慎重に取り扱う。
	③⑥	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のため配慮しているか	○		施設内設備や予定を可視化。マカトンを交え会話する等保護者や職員間で話し合いながら個々に合わせた伝達方法を確認し合っている	必要に応じて専門支援員に相談し職員間で確認しながら、更に積極的に児童、保護者一人ひとりと関わり分かり合っていく。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	○	自治会行事、地域行事に参加。外での活動では挨拶など積極的に交流。近隣の庭訪問や地域医療福祉施設と合同イベントを開催。見学者は通年受け入れている。	今後も地域と共に出来る事に参加していきたい。見学や実習を引き続き受け入れていく。
	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し職員や保護者に周知しているか	○		マニュアル作成し普段からいつでも見れるように常備。年度初めに全職員で読み込み所内研修で理解を深めている。契約時に保護者に伝えている。	各種マニュアルを職員個々でも普段から読みこみ緊急時に備える。地域、事業所内の状況の変化に合わせて、その都度実際に即したものにし、保護者にもこまめに周知していく。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		火災、地震訓練をそれぞれ年1回実施。その他地域の避難訓練にも参加するようにしている。送迎時を想定しこどもとの訓練も実施	今後も土地柄や時間帯（下校時）など様々な状況を想定しながら計画をたてる。訓練の反省を活かし今後の計画に繋げる。
非 常 時 等 の	④⑩	虐待を防止するため職員の研修機会を確保する等適切な対応をしているか	○		虐待防止マニュアルを作成し採用時又は年1回所内研修を実施。外部研修会の参加や所内会議で話し合いしている	療育内容や子どもとの接し方など細かな話し合いの時間を持ち、今後も虐待防止に努める
		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて組織的に決定し			重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。	職員の対応により二次障害、行動障害に向かう事がないよう、療育の在り方を職員間で繰

対 応	④1	子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		基本的に身体拘束はしない。どういう事が身体拘束にあたるのか、事業所内でも話し合いをしている。	りかえし話し合い、研修会参加の機会ももち続ける。
	④2	食物アレルギーのある子どもについて医師の指示書に基づく対応がされているか	○		診断書のコピーを頂き職員で確認している。おやつ時に再確認し配慮。その後の様子も保護者に確認している	定期的に保護者に伺い、現在の症状や食事、治療方針の変更などを確認していく。
	④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		事例を元に話し合いし安全確認した内容についても記録保管し全職員が常に閲覧できるようにしている。年度初めの所内研修にも使用	事例をもとに度々基本に立ち返り、話し合い事故防止に努める。